

アートにとってネットワークとはなにか。この半年、ベルギーに滞在しているが、ベネルクスのアート状況に分け入るにつれ、密なネットワークの存在を実感する。アーティストのスタジオは、しばしば「シュティヒティング」と呼ばれる団体によって運営される。日本で言う「NPO団体」に近く、アーティストが自分たちで運営している。特にオランダでは、スクワットという制度を利用し、空きビルをスタジオやアートのスペースにすることもよくある。美術大学も多く、大学を卒業したてのアーティストにスタジオを提供する施設もある。こうした環境を通じて、アーティスト同士、キュレーター、コレクター、アートファン、美術関連施設、学校などの間に自然で継続的な関係が生まれている。展覧会のオープニング時には、必ず誰もが参加できるパーティが行われることも、象徴的だ。ネットワークは、連帯による安定と相互の刺激による創造性をアートにもたらすだろう。青森のネットワークに期待する。

鷲田めるろ（わしだ・めるろ）／金沢21世紀美術館キュレーター

サンボビトがおすすめする、県内アートめぐりの旅 Vol.3
～古都・弘前 2泊3日ツアー～

弘前は、戦国時代に南部家から独立した津軽が信が都市計画し、2代藩主信政の時代1611年に弘前城が完成しました。来る2011年は弘前城築城400年の記念の年を迎えることから、市を挙げて祝う事業が多く開催されます。津軽は岩木山に抱かれ、岩木川・平川の恵みによって発展した、自然・文化の豊かな土地です。今回の旅は、東京発で2泊3日の津軽への旅。みちのくの古都・弘前を中心に、津軽の四季を彩る「花」や、文化・伝統の「華」を楽しんでみましょう。

10:00 東京羽田空港発(JAL1203)。
11:15 青森空港着。
11:30 レンタカーを借りて空港を出発し弘前公園へ。弘前に来たらもちろんここ、日本一の桜の名所で東北唯一の現存天守閣。10月中旬～11月上旬には「弘前城菊と紅葉まつり」が開催されます。園内は2200本の松の緑に1100本の楓、2600本の桜の紅葉が映え、ひととき情緒深い趣になります。その他にも市内には名所が沢山…
弘前城植物園(1,500種、124,000本の樹木などが植えられ、四季折々の草花が楽しめる)、藤田記念庭園(総面積6600坪、園内は高さ13mの崖地をはさんで、高台部は岩木山を眺望する借景式庭園、低地部は池泉廻遊式庭園)、りんご公園(春には可憐なリンゴの花、秋には挽わに実るリンゴの収穫を楽しめる)など。
夕刻 岩木山麓の温泉地へ向かう、通り道には「世界一長い桜並木」「桜林公園」「ミズバショウ沼公園」があります。
18:00 嶽温泉で宿泊、温泉で長旅の疲れを癒しましょう。■問:岩木山観光協会 0172-82-3000



桜の弘前城



たわに実るりんご



弘前市立博物館



手仕事の妙技・こぎん刺し



B級グルメの雑・つゆ焼きそば

↓

9:00 嶽温泉を出発。
途中で岩木山神社(津軽国一宮)・高照神社(四代藩主を吉川神道式で祀る)などを参拝し、神聖な気分。
11:00 弘前公園内・弘前市立博物館に到着、観覧。
12:00 ランチはお蕎麦がおすすめ、大豆をつなぎに使った「津軽そば」はこの地方独特のもの。普通の蕎麦も美味しいお店が公園近くに沢山あります。
14:00 民藝の創始者・柳宗悦が絶賛した津軽の手仕事の華「こぎん刺し」の制作風景を見に弘前こぎん研究所へ。藍の麻布に白綿糸で様々な模様が展開されます。■問:弘前こぎん研究所 0172-32-0595
15:00 津軽藩ねぶた村で、弘前の夏の風物詩「弘前ねぶた」の雰囲気味わう。高さ10メートルの大型ねぶたを見ることができ、笛・太鼓によるねぶた囃子が実演されます。金魚ねぶた・津軽風船・津軽塗・こぎん刺しなど様々な製作体験で、自分で土産をつくってみては(要予約、90～120分くらい)。■問:0172-39-1511
18:00 夜は「津軽料理遺産」「津軽三味線」と津軽らしさを楽しむ。弘前市内ホテル・旅館で宿泊。8/1～7は「弘前ねぶたまつり」開催。■問:弘前観光コンベンション協会 0172-35-3131

↓

9:00 弘前を離れて、黒石方面へ。
10:00 温湯温泉で一風呂、津軽伝承工芸館・津軽こけし館でこの地方の数々の民芸の華を楽しむ。お昼には、ご当地B級グルメ黒石つゆ焼きそばを。■問:焼きそばのまち黒石会(商工会議所内) 0172-52-4316
13:30 黒石発、空港へ向かう。
14:40 青森空港発(JAL1206)。
15:55 東京羽田空港着、お疲れさまでした。

編集後記

暮らしの中で芸術をもっと身近なものにしていく環境づくりを目指して生まれた「あおり芸術振興ネットワーク」が発足して早1年、今回は友の会やボランティアスタッフなど、一般の方が参加できる各団体の活動についてお届けしました。一般市民のアート参加には様々な形がありますが、今回紹介した団体の方々のごく自然にアートに親しみ、楽しんでいることがうかがえます。美術館・博物館・その他関連施設にとっても、そのような一般愛好者に支えられていることはとても幸せなことだと思います。これからも、アートが好きな人はもちろん、何か新しいことを始めてみたいと思っている人たちが気軽に参加でき、アートを通じて交流の輪が広がっていくよう、このフリーペーパーが少しでもお役に立てればと思います。(あ)

<あおり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会>

暮らしの中で気軽にアートに親しめる環境づくりとともに地域の芸術拠点の活性化を図るため、県内の美術館、博物館、アートNPO等が相互に連携して地域の芸術振興に取り組み、施策(プロジェクト)を研究するとともに、パイロット的に事業展開していくものとして2008年3月に発足しました。

○現在の参加館:青森県立美術館・青森県立郷土館・国際芸術センター青森・棟方志功記念館・ARTizan/空間実験室・弘前市立博物館
NPO法人harappa・八戸市美術館・ICANOF・十和田市現代美術館・寺山修司記念館・鷹山宇一記念美術館

『Aomori Art Stroller 003号』発行日:2009年8月1日/発行:あおり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会
企画・編集・デザイン:プロジェクト研究会編集部/印刷:青森オフセット印刷株式会社/紙面に掲載している写真・テキストの無断転載を禁ず
このフリーペーパーに関する問い合わせ:青森県立美術館内あおり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会 担当/〒030-0021 青森市安田字近野185/電話 017-783-3000

Aomori Art Stroller

あおりアート散歩人

2009/8-11
003
FREE PAPER/無料



アートチャンネルトワダ VOL.8・公募展「アノニマス・カワード・アワード」大賞受賞作品
大池偉織(郵便車)/297×210mm/画用紙、水彩

参加するアート

～新しいことを始めたい、新しいものに出会いたい～



Aomori Art Stroller

『Aomori Art Stroller/あおりアート散歩人(サンボビト)』はあおり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会が作成するフリーペーパー。各アートのスペースのプログラムを相互に結びつけ情報発信することで、アートの楽しさを伝えてゆくとともに、新しい楽しみかたを提案してゆく「コミュニケーションの場」となってゆくことを目指しています。

●青森県立美術館に「参加する」

<サポートスタッフ>

青森県立美術館の事業を、ボランティアで支えてくれる「サポートスタッフ」。作業内容は、イベントやワークショップのサポート、パンフレット発送作業、作品資料整理など多種多様。夏休みや冬休みには、自主イベントも実施しています。スタッフの募集は年2回。参加するスタッフは、美術館が地域にもたらすものの重要性をとて大きく感じているようです。美術館は、新たな発見や感動により豊かな心を育む場所。みんなにこのことを感じてもらえるよう、ひとりひとりがやりがいを持ってサポートしてくれています。

<ファシリテーター>

「ファシリテーター」とは、直訳すると「理解を促す人」。授業の一環で美術館に来た子どもたちに、作品の感想を聞いたり、見る視点を与えるなどして、理解を引き出す手助けをする、いわば、子どもとアートをつなぐスタッフです。現在20名ほどが活動しています。作品に関する知識が必要になるので、定期的集まって勉強会をひらいたり、家で自主学習をすることも…。年に1回、広く県民から募集。作品と一緒に見て、子どもたちがたくさん発言してくれる。それから最後に「また来るよ!」と手を振って帰って行く。このことが、スタッフにやりがいを感じさせてくれるようです。

<メンバーシッププログラム>

「メンバーシッププログラム」はいわゆる「会員制度」。みんなにアートをもっと身近に、楽しくしてもらえるよう、お得に展覧会を鑑賞できたり、ミュージアムショップやカフェで割引を受けられたり、会員限定イベントに参加できたり、ちょっぴり優越感にひたれるプログラムです。また、会員証は奈良美智さんと、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアルアイデンティティ(VI)を考案した菊地敦己さんとのコラボレーション。入会は随時可能。いろいろなお店が集まる「ショッピングモール」を楽しむように、美術館を楽しむことができる、お得な制度。

<番外編>

演劇に「参加」することも、楽しい。

青森県立美術館では、開館前から県民が出演者となったり脚本づくりに参加するなど、県民とともに作り上げていく「県民参加型演劇」を展開しています。毎年、演劇経験の有無に関係なく様々な年齢や職業の方々が参加しており、とっても緊張する分、達成感は格別な様子。また、人間関係が広がったとの感想も多く寄せられています。2009年は県立美術館ではお休みしますが、太宰治生誕100周年を記念して小説「津軽」を題材とした県民参加型演劇が9月2日(水)から6日(日)の5日間、津軽鉄道芦野公園駅で上演されることとなっています。出演者の募集は既に締め切られてしまいましたが、みなさんの身近にいる人が、渡る世間は鬼ばかりでおなじみの村田雄浩さん、3年B組金八先生でおなじみの川上麻衣子さんと共演する姿は必見。



作品展示を手伝うサポートスタッフのみなさん



奈良美智さんの作品が配された会員証

●国際芸術センター青森に「参加する」

<AIRS>

AIRS(アーティスト・イン・レジデンス・サポーター)とは、国際芸術センター青森(略称ACAC)のボランティアサポーターです。ACACで行われる事業をサポートするボランティア活動のほか、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)における市民とアーティストとの交流を進める中から、多くの市民が文化芸術活動に親しみ、参加し、アートを通じたグローバルな(国際的な視野に立った)コミュニケーションの推進を図り、広く地域の文化芸術の充実・発展に寄与することを目的としています。具体的な活動の一例として、AIRプログラムに滞在するアーティストの創作活動支援があります。滞在中のリサーチ補助、作品制作のサポート、通訳、交流パーティーの開催など、ボランティア一人ひとりの得意な分野を活かしながら、活動を行っています。メンバーは青森公立大学の在学生や、青森市在住の社会人が中心となっており、10~60代までの幅広い層が参加しています。

【参加条件】

正会員：目的に賛同して入会した個人(年間費1,000円)
賛助会員：事業を援助する企業及び団体(年間費10,000円)
詳細はHPをご覧ください <http://airsaomori.fc2web.com/index.html>

●鷹山宇一記念美術館に「参加する」

<友の会>

鷹山宇一記念美術館開館と同年の1994年に発足した「鷹山宇一記念美術館友の会」は、美術館と共に歩み、共に年を重ねてきました。『鷹山宇一記念美術館の活動に協力し、美術に関する知識と教養の向上を図り、楽しい交流を深める機会を多くし、美術を中心とした芸術文化の振興発展に寄与する』その本旨にあるとおりの活動で、15周年となる現在もなお、一切の事業が会費収入のみで会員の手により運営されています。しかも、全てが手弁当のボランティア。年4回発行される会報、国内外の美術館を巡る研修会、そして、鷹山美術館の特別展など事業への協力。展示会場の保守活動など人的支援はもちろん、作品収集もままならない鷹山美術館のために絵画購入資金の積立まで行っています。志高く、意欲的な活動には本当に頭が下がります。有給の職員もいない会社組織でもない「友の会」が何故このような堅実に組織を運営し持続できるのか?

振り返ればこの美術館のはじまり、根幹を成す精神がすべてではなかったかと思うのです。郷土の画家・鷹山宇一を敬愛した町民たちの熱意から草の根運動へと発展し、ついに美術館開設を現実のものにした、あの時代を支えた人々の精神を友の会は確固と受け継いでいる、そのように感じられてなりません。個人の利益や見返りを求めるのではなく、この地の未来やその未来を担う子どもたち、多くの人々の感性や心を育む、想像を巡らす場、感動体験の場、そんな美術館という特性を活かした人づくり・地域づくりを、ただただ純粹に願ひ求めた熱い思いが同じ根底にあります。共通の思いで明日へと向かう、友の会と鷹山美術館はまさに「同志」なのです。



国外研修旅行、エッフェル塔をバックに記念撮影

●棟方志功記念館に「参加する」

<賛助会員制度>

賛助会員制度は棟方作品購入の一助とするため、記念館の作品充実を願う方々にご協力をいただくという趣旨のもと昭和57年から始まりました。会費は棟方作品購入に充てられており、当館所蔵約180作品のうち73作品はこの賛助会員会費によって購入されたもの。会員は、個人を対象とする一般会員と、団体を対象とする特別会員からなり、入会すると、会員証による入館フリーパスやミュージアムグッズの割引、「記念館だより」配付などの特典があります。昨年度の会員数は一般会員233人、特別会員22団体。会員のひとり、写真家である浦田実さんは古くからの棟方ファンです。県内で祭りを楽しむ棟方の写真も撮影しており、昭和46年には棟方が自ら描いた弘前ネプタの前で跳ねる姿をカメラに収めています。ふらりと自転車で記念館を訪れ、当時の様子を懐かしく語ってくれます。賛助会員は、いわゆる「友の会」組織ではないため、ツアー見学会などはなく、「記念館だより」による館からの情報発信が主なものですが、会員証を活用して何度でもご来館して下さる常連も定着しています。来館者との距離が近いのも小規模館ならではのことで、お尋ねになりたいことがあればお気軽に声をおかけください。多くの棟方ファンによって記念館が支えられていることを忘れず、今後も記念館の活動を充実させていきたいと思えます。



賛助会員の浦田さん

※会費は一般会員3,000円、特別会員30,000円。
会員期間は年度単位(4月~翌年3月まで)。随時入会申込受付中。

参加するアート

「アート」=自分とは遠い存在のもの…そんな風に考えている方は結構多いのではないのでしょうか。あおもり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会に参加する各拠点では、世代などに関係なく誰でもみんなでアートを楽しめるよう、作品を鑑賞するだけではなく「参加して楽しむ」プログラムを用意しています。「参加するアート」は人と人を繋ぎ、心と心を繋ぎます。そして作品を鑑賞したときの新しい発見や感動とは違った「豊かさ」が、わたしたちの心に育まれます。さあ、みんなで参加しよう! 申込・問合せは中面「アート予定表」でチェック!!

●十和田市現代美術館に「参加する」

<アートチャンネルトワダ>

「アートチャンネルトワダ」は、十和田市が推進する「野外芸術文化ゾーン(Arts Towada)」とともに、2003年度から行われている活動です。2008年にはArts Towadaの核となる施設・十和田市現代美術館が開館したのを機にさらに活動の幅を広げるべく、現在では市民有志が実行委員会組織を作り活動の主体となってアートの楽しさや魅力を発信しています。会の名称は、十和田市の街が人工河川を引水することに由来して発展したことから、運河を意味する「カナル(canal)」と共通の語源となる「チャンネル(channel=道筋、伝達経路)」にちなみ、アートの楽しさを全国に発信していく思いを込め命名されています。



きたざわけんじ氏を迎えてのワークショップアートチャンネルトワダVol.8にて

●harappaの“部活動”に「参加する」

現在「harappa部活動」では4つの部活動(企画部・写真部・手芸部・映画部)が、参加しているみんなでできることを教え合い、話し合いながら進めています。部活動を通してでしか得られない満足感、達成感を楽しめます。部員は随時募集中!



Free Column 八戸の新しい魅力を創り出す <八戸ポータルミュージアム(hpm)>

「八戸ポータルミュージアム(hpm)」は、八戸に存在する「人」「物」「食」「情報」などのさまざまな魅力を発見・発信する文化交流拠点。八戸市の中心市街地活性、観光事業の柱として、同市三日町に地上5階建のビル建設を計画。現在、2010年のオープンを目指して準備が進められている。物販などの商業スペースは置かず、あくまでも市民交流が中心。ポータルスペース(多目的ホール)、ギャラリー、和室、プロジェクトスタジオ(創作活動やビジネスの場として長期間利用可能)のほか、宿泊可能な作業場(アーティスト・イン・レジデンス)を設けるなど、ものづくり、表現者たちの活動と交流を支援します。また、現在、公募で集まったワーキング・グループによるミーティングを随時開催し、hpmのあり方や利用方法について市民が提案、実施する場を設けています。近隣の商店主、会社員、学生など、年齢も職業もさまざまな人々が集まり生み出したユニークなアイデアが、これまでもプレ事業として数々実施されています。まさしく「市民参加型」。hpmは「施設」としてはくることのできない、活動体そのものというべき存在になりそう。この夏には、プレ事業「八戸横丁アートプロジェクト~酔っ払いに愛を」が開催されています(8/31まで)。hpmが建設されるエリアは「横丁」と呼ばれ、小さな路地に飲食店街が立ち並んでいる。50年もの歴間、地域の人々に愛されてきたこの場所の魅力をアーティストとともに発見し、訪れた人々に楽しんでもらおうというもの。酔っ払いが家族に持ち帰るお土産の開発や、空き店舗での映画上映などが行われる。スタッフとして参加するもよし、酔っ払いになって楽しむもよし。夏の八戸の新しい魅力に触れてみては。

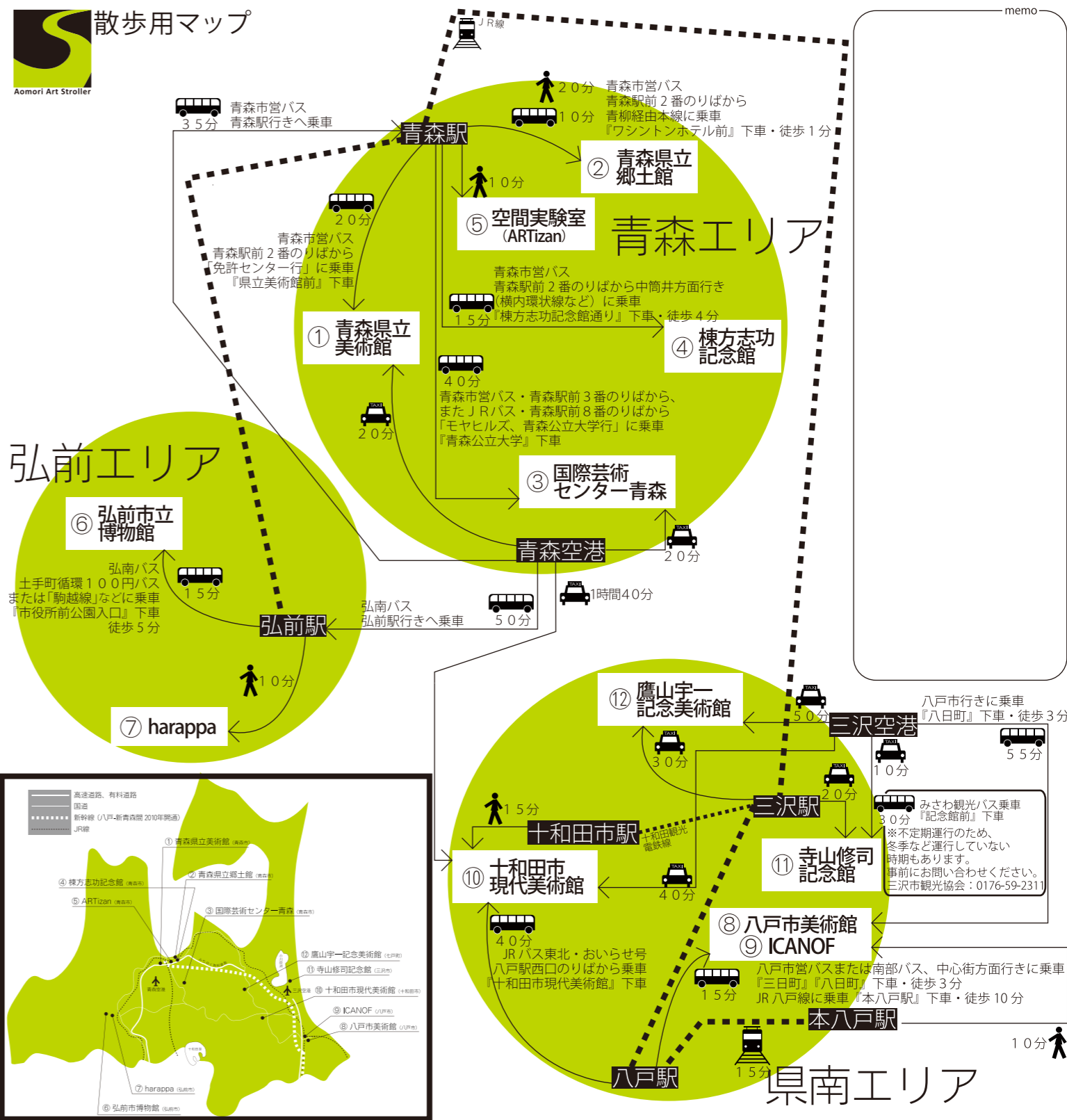


「八戸横丁アートプロジェクト~酔っ払いに愛を~」イメージ写真

【お問い合わせ】hpm市民ワーキング
tel.080-3474-0321 hpm_w@yahoo.co.jp www.8pm.jp/

2009年8月～11月の
青森県内アート予定表

	8月	9月	10月	11月
①青森県立美術館 青森市安田字近野185 http://www.aomori-museum.jp/ 017-783-3000	常設展 6/29(月)～9/6(日) シャガール、奈良美智、寺山修司など 馬場のぼる展 9/6日まで “11びきのねこ”がやってくる ニャゴ「ニャゴ!ニャゴ! 特別展 生誕100年記念 9/6(日)まで 太宰治と美術 - 故郷と自画像	展示替え 休館 9/7(月) -10(木)	秋のコレクション展 9/11(金)～12/25(金) 「祈りと瞑想」/ピカソ「女の頭部、横顔」特別公開 吉村作治の新発見! エジプト展～国立カイロ博物館所蔵品と～ 9/19(土)～11/23(月)	
②青森県立郷土館 青森市本町2丁目8-14 http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan 017-777-1585	花田陽悟展 7/7(火)～8/16(日)	妖怪展～神・もののけ・祈り 8/28(金)～10/12(月)	北海道・北東北縄文巡回展 10/20(火)～11/23(月)	
③公立大学法人 青森公立大学 国際芸術センター青森 青森市合子沢字山崎152-6 http://www.acac-aomori.jp/ 017-764-5200	アーティスト・イン・レジデンス 2009・春<原初の肖像> ハン・スーチェン(台湾/アメリカ) ヨク・クンヒョン(韓国) 本田健(日本) 8/29(土) 龍生派 いけばな野外展 30(日) 主催:龍生派青森支部・五所川原支部	<未視感>～松村泰三×森田多恵展 9/5(土)-10/12(月・祝)	同時開催「ワークショップ:森の植物で遊ぼう」 8/29(土)13:30- 8/30(日)10:30- 講師:龍生派青森支部・五所川原支部/受講費:500円	
④棟方志功記念館 青森市松原2丁目1-2 http://www.lantecweb.net/shikokan/ 017-777-4567	夏の展示 「棟方志功の油絵-描写への情熱」 6/30(火)-10/4(日) ※無料開館日:9/13(日) 棟方志功画伯命日	秋の展示 「舞(まう)・謡(うたう)・跳(はねる) -躍動する天妃たち」 10/6(火)-12/24(木) ※無料開館日:11/3(火) 文化の日		
⑤ ARTizan 空間実験室 青森市古川12丁目19-18 http://artizan.fromc.jp/spacelab/ 090-9423-1009	<空間実験室2009>7/31(金)-12/9(水)*木曜日定休 若手アーティストの個展やグループ展、ライブ、芝居、ワークショップ... 期間中はさまざまなプロジェクトが次々に展開されます。 詳細は空間実験室ホームページでチェック! http://artizan.fromc.jp/spacelab/			
⑥弘前市立博物館 弘前市下白銀町1-6 弘前公園内 http://www.hi-it.net/~hakubutsu/ 0172-35-0700	弘前ねぶた展 7/4(土)～8/23(日)	天野邦弘展 9/5(土)～10/18(日)	絵図にみる津軽・弘前 10/31(土)～12/20(日)	
⑦NPO法人harappa 弘前市土手町112 http://harappa-h.org 0172-31-0195	岩木遠足 8/8(土)			
	8月	9月	10月	11月
⑧八戸市美術館 八戸市大字番町10-4 http://www.hachinohe.ed.jp/artmuseum/ 0178-45-8338	企画展・市制施行80周年記念 「鈴木コレクション秀作展」 -コレクション10年のあゆみ- 7/18(土)-8/23(日)	ICANOF 『Blinks of Blots and Blanks展』 会場:八戸市美術館	コレクション展II 10/3(土)～11/15(日)	
⑨ICANOF http://www.hi-net.ne.jp/icanof 0178-45-9247		ICANOF第9企画展<Blinks of Blots and Blanks展> 9/18(金)-27(日) 11時～午後18時 会場:八戸市美術館/入場無料(※特別プログラムのみ資料実費1000円) 企画・監修:豊島重之(ICANOFキュレーター)	MOLECULAR THEATRE <mouthed マウス>公演 11/21(土)-23(月) 会場: free space CANVAS (JR・東京メトロお茶の水駅より5分)	
⑩十和田市現代美術館 十和田市西二番町10-9 http://www.city.towada.lg.jp/artstowada 0176-20-1127	※8/3,10,17の各月曜日は臨時開館 常設展:21名の作家による22の作品/常設展示ですので、すべての作品がいつ来てもご覧いただけます アナ・ラウラ・アラエス、チェ・ジョンファ、フェデリコ・エレロ、キム・チャンギョム、栗林隆、ジム・ランビー、マイケル・リン、森北伸、ポール・モリソン、ロン・ミュージク、マリール・ノイデッカー、オノ・ヨーコ、ハンス・オブ・デ・ビーク、ボッセル・セートル、ジェニファー・スタインカンブ、スッドーホー、高橋匡太、トマス・サラセーノ、椿昇、山極満博、山本修路 チェ・ジョンファ OK! 8/23(日)まで	市民オープンギャラリー 9/1(火)-13(日)	相撲-オーラ-展 9/19(土)-10/18(日)	折形デザイン研究所の包結圖説 11/7(土)-12/6(日)
⑪寺山修司記念館 三沢市大字三沢字淋代平116-2955 http://shuji-museum.misawasi.com 0176-59-3434	※8/3,10,17の各月曜日は臨時開館 寺山修司27回忌・寺山修司記念館12周年記念 テラヤマ・ワールド 2009 in 三沢 ～父・寺山八郎と寺山修司～ 2009/8/2(日)-2010/7/25(日)			
⑫鷹山宇一記念美術館 上北郡七戸町字荒熊内67-94 http://www1.town.shichinohe.aomori.jp/sightseeing/spot_takayama 0176-62-5858	戦没画学生慰霊美術館 「無言館(むごんかん)」収蔵作品による-祈りの絵画-展 7/26(日)-9/6(日)	展示替え 休館 9/7(月) -11(金)	鷹山宇一常設展 9/12(土)-10/12(月・祝)	展示替え 休館 10/13(火) -16(金)



3個目のスタンプを押した館にてこの紙を提示して下さい。記念品と引き換えます。また提出の際下記のアンケートにご協力下さい。

年齢 (10代以下、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上)
 性別 (男性・女性)
 お住まい (市町村名)

3つ集めるとプレゼントあり!

アンケート

1

2

3

サ ン ポ ビ ト カ ー ド

受付・引換確認欄

年 月 日